

神奈川県・静岡県で出前講座を開催しました

防災砂防課と都市計画課では、南海トラフ地震など今後大規模災害が想定される各自治体に出向き、本県が東日本大震災からの復旧・復興事業で得た経験や教訓を伝承する出前講座を実施しており、今回は「神奈川県」と「静岡県」にて開催しました。

講座は3部構成で実施し、第1部では「東日本大震災からの復興と震災教訓の伝承」と題し、東日本大震災の概況や復旧・復興事業の概要を、第2部では「早期復旧に向けた取組と初動対応」と題し、当時の入札不調の状況とそれに対する受注環境改善等や、発災時の初動対応についてを、第3部では「東日本大震災の教訓を踏まえた復興まちづくり」と題し、本県が行った復興まちづくりの方針・考え方や、事業を進める中で出た課題とそこから得た教訓についてをそれぞれ説明しました。また、会場内では、当時の派遣職員の方々が担当した事業の完成状況や、復興まちづくりの状況を伝える復旧・復興パネル展を行いました。

当日は各県職員のほか県内市町村および外郭団体職員と多くの方に参加いただきました。参加者アンケートによると、ほぼすべての方が事前防災対策の「参考になった」と回答したほか、「今後もこのような出前講座を受講したい」、「若手職員に受講させたい」という回答をいただきました。

引き続き、東日本大震災の被災経験や教訓を、各自治体の災害対策に活かしてもらえよう、取り組みを継続していきます。

出前講座の状況



【受講後のアンケート(一部抜粋)】

- 神奈川県職員から
 - 実際に経験した方からの、事前防災の必要性をお話いただき大変身に染みた。人事と捉えず我が事として今できる事前防災に取り組んで行きたいと思う。
 - 復興に当たって地域の声とどう向き合ったのかについて聞いてみたい。
 - 建築系の内容(応急仮設住宅、被災建築物応急危険度判定、その他復旧・復興に関する内容等)も聞いてみたい。
 - 私は、東日本大震災で福島県に災害派遣されていたが、派遣職員の思いや考え方もあると思うため、宮城県に派遣されていた他自治体職員の意見等も講座に含めてもらうとより良いかと思う。
 - 神奈川県へ大きな影響があるとされる巨大地震について、その切迫性は認識しているものの、想定される被災状況やその後の対応など、どうしてもリアルに感じられない部分があったが、今回の講座では現場の生の声を聞くことで危機感が高まった。本県がどの様に自助・共助・公助を県民に対して理解させていくか考えていく必要があるが、被災県の皆さまにおかれましても、被災地域での伝承に留まらず、首都圏の自治体等と連携しながら、この様な取組みを広く、長く展開していただきたいと切に願う。
- 静岡県職員から
 - 職員が被災者でもあるなかどのようにモチベーションを維持または職員の意識を仕事に向けることが出来たのか聞いてみたい。
 - 実務経験者の苦労点、改善点をもっと聞いてみたい。
 - 下水道及び上水道の復旧及び初動対応、課題等を詳しく知りたい。
 - 過去の災害が風化しないためにも、若い職員や技術職員以外にも学んでもらえると良いと感じた。
 - 貴重な講義を拝聴させていただき非常に有意義だった。
また、実際に初動にあられた方のお話も拝聴できる機会があれば参加させていただきたい。

etc...

